

平成27年度事業報告書

自：平成27年4月1日 至：平成28年3月31日

(公益事業)

公1事業、写真に関する創作活動の奨励、人材の育成、教育に係わる事業

(1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を全国の小学校39校で指導者25名、参加児童数992名で実施した。このプログラムは、児童たちの興味や関心事に目を向け児童と共に体験を通して学ぶ、「体験、参加型」の学習並びに指導で、写真という優れた記録媒体を使つての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。

今回も、デジタルカメラでのトライアル授業を東京の小学校7校で行い、デジタルカメラでの実施に向け検討をした。(過去11年間の合計565校20,514名)。富士フイルム㈱の協力で行った。

この児童たちの作品を多くの方々に見ていただくとう、富士フイルム㈱・富士フイルムイメージングシステムズ㈱が主催する「“PHOTO IS” 想いをつなぐ。30,000人の写真展」での特別企画「“PHOTO IS” 小学生の眼」へ参加児童の作品を毎年展示している。本年も1,007点を7月～11月迄東京他14会場に展示した。

また、この展示作品の中から300点をCP+2016イベント・特別展示でも「小学生がとらえた一わたしがみつけた世界」展として平成28年2月25日～28日、みなとみらいギャラリー ギャラリーBで催した。児童がどのような物に興味をもって撮っているか、子ども達の多様な感性を鑑賞していただいた。

(2) 「エコトクフォトコンテスト」を都近郊、大阪の4カ所の小学校で実施、参加児童149名の作品を選考した。今回7年間の集大成として児童の作品を広く一般の皆さんに鑑賞していただくとう写真展を大阪・京セラドーム大阪で8月13日に催した。クラレトレーディング㈱の協賛。

(3) 全国高等学校文化連盟写真部との共催で催している高校写真部顧問を対象とした第9回「デジタル写真講座」を、6月宮城、10月静岡の2カ所で行った。高校生の大半がデジタルでの写真制作で、顧問の先生方もカメラの仕組みや使い方、インクジェットプリントの技術を習得しようとう約7時間の講習を熱心に体験された。(㈱ニコンイメージングジャパンとエプソン販売㈱の協力で行った。

日時	開催地	講師	受講者
6月19日(金)	宮城・青葉区中央市民センター	講師：熊切圭介、足立寛 補助：大沼英樹、宍戸清孝	教師21名
10月3日(土)	静岡・静岡学園高等学校	講師：松本徳彦、桑原史成 補助：高宮岳彦、日置真光	教師22名

(4) 技術研究会を行った。

開催名	場所	日時	参加数
第1回「凸版印刷工場見学セミナー～デジタル時代の製版・印刷を学ぶ～」	凸版印刷板橋工場	5月14日(木)	20名
第2回「超高画素機の研究～キヤノン編～キヤノンEOS 5DsとEOS 5Ds Rの解像力と特徴について」 講師：秦 達夫、川北茂貴 (JPS会員)	JCIIビル 6階会議室	平成28年2月14日(日)	62名
第3回「デジタル時代の三脚&一脚選び～スリック、ベルボン、マンフロット・各メーカーに聞く～」 講師：川村容一、土屋勝義 (JPS会員)	JCIIビル 6階会議室	平成28年3月17日(木)	72名

(5) カメラと写真映像の情報発信イベント「CP+2016イベント」でJPS講演会「肖像権 こんなときどうする」を平成28年2月27日(土)、パシフィコ横浜・会議センター301～302で催す。講師：松本徳彦 (JPS副会長) 参加者354名。

(6) 専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科での講義「報道写真論」の講師に石川文洋氏、清水哲朗会員を派遣した。この講座は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを方針として平成23年度に開設され、当協会は講師派遣を委託されている。

公2事業、写真の表現に関する展示、講演、保存に係わる事業

(1)「第40回2015JPS展」を東京、名古屋、京都で開催した。

公募作品受付：2014年12月15日(月)～2015年1月20日(火) 作品審査：2月7日(土)

審査員：田沼武能(審査員長)、安珠、中村征夫、林義勝、藤森邦晃(『フォトコン』編集長)

後援：文化庁、東京都ほか

応募総数：2,056名6,861枚(一般部門：1,925名6,586枚、以下：歳18歳以下部門：131名275枚)

入賞・入選者総数：280名490枚

一般部門：246名433枚(文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞25名、入選208名)18歳以下部門：33名57枚(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選4名) 会員作品：「プロの眼」50名(3枚組写真)150枚

パトナー：「ヤングアイ」参加校17校

参加校・札幌ビジュアルアーツ写真学科、筑波大学芸術専門学群、現代写真研究所、東京工芸大学芸術学部写真学科、東京ビジュアルアーツ写真学科、東洋美術学校クリエイティブデザイン学科、日本写真芸術専門学校、日本大学芸術学部写真学科、東京総合写真専門学校写真芸術第二学科、名古屋ビジュアルアーツ写真学科、名古屋芸術大学メディア造形学部映像メディア学科、日本写真映像専門学校、ビジュアルアーツ専門学校大阪写真学科、大阪芸術大学写真学科、宝塚大学造形芸術学部制作力創造学科、九州造形短期大学造形芸術学科写真専攻、九州産業大学芸術学部写真映像学科

総展示数：総展示数：657枚(公募280名490枚、会員50名150枚ヤングアイ17校17点)

総入場者数：6,291名

入場料(各展共通)：一般700円(団体割引560円)、学生400円(団体割引320円)、高校生以下無料、

65歳以上400円(関西展、名古屋展は65歳以上無料) ※団体は20名以上

各都道府県応募者数：北海道55、青森5、岩手12、宮城23、秋田4、山形9、福島15、茨城56、栃木24、群馬12、埼玉173、千葉115、東京281、神奈川165、新潟46、富山4、石川17、福井5、山梨3、長野31、岐阜30、静岡24、愛知179、三重39、滋賀79、京都79、大阪167、兵庫85、奈良51、和歌山20、鳥取8、島根5、岡山37、広島42、山口15、徳島9、香川13、愛媛12、高知8、福岡42、佐賀5、長崎9、熊本11、大分3、宮崎5、鹿児島7、沖縄16、海外1名

2015JPS展副賞提供社(49社)：(株)アイデム、朝日新聞出版(アサヒカメラ編集部)、(株)アスカネット、(株)アマナ、(株)栄光舎、エプソン販売(株)、オリンパス(株)、加賀ハイテック(株)、(株)学研パブリッシング(CAPA編集部)、(株)ガードフォースジャパン、(株)キタムラ、キヤノンマーケティングジャパン(株)、清里フォトアートミュージアム、(株)クラレ、(株)クレヴィス、(株)玄光社、(株)ケンコー・トキナー、(株)コスモスインターナショナル、サンディスク(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、写真文化首都北海道「写真の町」東川町、(株)スタート・ラボ、スリック(株)、(株)セコニック、ソニー(株)、(株) ソフトウェア・トゥー、(株)タムロン、(株)DNPフォトイメージングジャパン、デジタルカメラグランプリ事務局、(株)ニコンイメージングジャパン、(株)日経ナショナルジオグラフィック、(一財)日本カメラ財団、(株)日本カメラ社、(株)日本写真企画、ハクバ写真産業(株)、パナソニック(株)、(株)ピクトリコ、(株)風景写真出版、富士フィルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、ベルボン(株)、(株)堀内カラー、マイクロンジャパン(株)、マンフロット(株)、光村印刷(株)、(株)モーターマガジン社、ライカカメラジャパン(株)、リコーイメージング(株) (50音順)

開催名	会場	日時	参加数
◆東京展(後援：文化庁、東京都、東京都写真美術館) 表彰式 講演会「編集長に聞く～コンテスト応募指南～」 講師：藤森邦晃『フォトコン』編集長、熊切圭介会長 祝賀パーティー	東京都美術館 ギャラリーB・C 東京都美術館2階講堂 " 東京都美術館2階スタジオ	6月11日(木)～ 26日(金) 6月13日(土)1時 " " " 3時 5時	3,067名 約200名 約200名
◆名古屋展(後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会) 表彰式・東海地区入選者紹介 講演会「新しい星景撮影法」講師：村坊文(写真家) イベント：「デジタル一眼カメラで撮る『家族写真』」講師： 講師：JPS展名古屋展委員	愛知県美術館E・F室 愛知県美術館12階A室 " 愛知県美術館12階F室	7月15日(水)～ 20日(月) 7月18日(土)1時 " " 10時	1,490名 約150名 約150名 6組16名
◆関西展(後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会) 表彰式・関西地区入選者紹介とビジュアルパフォーマンス 講演会：「『京都』四季のうつろい」講師：中田 昭 (JPS会員) イベント：「浴衣で写真教室」講師：JPS会員	京都市美術館別館 京都市国際交流会館	8月25日(火)～ 30日(日) 8月28日(金)1時 " 3時 8月25日(火)10時	1,726名 170名 170名 10名

(2) 「2015年新入会員展—私の仕事」を開催した。

会期	場所	入場数	備考
7月16日(木)～22日(水) 16日(木) 18:00～19:30	アイデムフォトギャラリー「シリウス」 " オープニングパーティー	488名	展示34名68枚 参加者125名
8月14日(金)～20日(木)	富士フィルムフォトサロン大阪	3,074名	

(3) 「写真が持つ力とは何か」について語る、第9回JPSフォトフォーラム「地球を語る！」を11月7日(土)、有楽町・朝日ホールで開催した。参加者451名。(共催・朝日新聞出版、後援・文化庁)

10:20～15:50 講演とパネルディスカッション パネリスト：清水哲朗、前川貴行、高砂淳二。司会：佐々木広人(『アヒカガ』編集長) 協賛(7社)：エプソン販売(株)、オリンパス(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、(株)シグマ、(株)タムロン、(株)ニコンイメージングジャパン、富士フィルムイメージングシステムズ(株)。

(4) 文化庁委嘱事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」

①収集・保存とデータベース

- ・平成27年度の写真原板の受入は、渡辺義雄(伊勢神宮、迎賓館、宮殿、桂離宮、法隆寺、東大寺、モスクワ、イタリアなど約4万本)、佐伯義勝(砂川、内灘闘争)、岡村崔(ヴァチカン)、和木光二郎(女優、俳優)、山本陽子(芸者)、緑川洋一(瀬戸の人々)、木村伊兵衛(前進座)、吉岡専造(人間零歳関係)、増田彰久(旧朝香宮邸)、久保靖夫(東京の空撮)、稲越功一(男の肖像他)永田一脩(山、釣り)、渋谷大郎(ポートレート、風景)菅井日人(ルルド他)の14名、58,489本。(平成21年から7年間の写真原板受入数は54名、約205,308本)
- ・保存庫へ収蔵：吉岡専造、菊池俊吉、朝倉隆、和木光二郎、増田彰久、永田一脩、辻本満久、佐伯義勝、恒成一訓、児島昭雄、菊原穂、プリストル・ホレスと旧写真協会『写真週報』。入庫作業は6月25日、11月12日、の2回で合計13名合計7,210本。(平成24年から4年間の相模原フィルム保存庫への写真原板入庫は55,429本。)
- ・寄贈および寄託契約書の作成(北村弁護士)。
- ・写真原板のデータベースSAI-CHIの管理用を構築。閲覧用の実証実験を実施。

②日本写真保存センター企画写真展、原爆投下から70年を記念して写真展を催した。

展示作品：ヒロシマ・ナガサキ被爆直後から1945年10月末までに撮影された写真で構成。撮影当時の撮影フィルム、乾板などからプリントした写真約60点展示。2016年2月25～28日開催のCP⁺2016(みなとみらいギャラリー)でも開催。7月京都市美術館別館で開催のJPS展で原爆展を展示予定。同名の図録を発行。

開催名	会場	日時	参加数
◆「被爆から70年 知っていますか…ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」 講演会「ヒロシマからの出発」講師：橋爪文(詩人) 講演会「記録の重み—被爆直後を撮影したフィルム」の保存を」 講師：田良島哲(東京国立博物館)、金子隆一(写真作家)	日本カメラ財団 JCIIFォトサロン JCIIFビル6階会議室 "	8月4日(火) ～30日(日) 8月5日(水) 8月8日(土)	約8,000名 112名 80名
◆CP ⁺ 2016イベント・特別展示「知っていますか…ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾」 ・併設「なぜフィルムを保存するのか」活動状況の紹介も展示	みなとみらいギャラリー	平成28年2月25日 (木)～28日(日)	5,698名

③保存センターセミナーを開催した。日本写真保存センターが構築している写真原板のデータベースの現状と閲覧について、そのノウハウについて説明した。昨年に続いて今回も全国各地の公文書館、博物館、美術館や写真家などの専門家をはじめマスメディア、大学関係者等の聴講者で賑わった。

開催名	会場	日時	参加数
page2016オープンイベント・JPSセミナー「写真原板のデジタルアーカイブの現在」 「写真原板のデータベースについて」講師：笹木諭(保存センター) 「データベース構築に関するノウハウ」講師：大塚建太(サウス&S(株)) 「SAI-CHIによる写真原板データベース」講師：奥平正幸(凸版印刷(株))	池袋サウスイーゼ文化会館7階会議室	平成28年2月3日(水)	90名

④2014年から発足した日本写真保存センターの作業に係る費用を支援いただくための支援組織は、2社、1団体増え14社となった。(株)アイデム、エプソン販売(株)、オリンパス(株)、(株)キタムラ、キヤノン(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、(株)タムロン、凸版印刷(株)、(株)ニコン、富士フィルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、光村印刷(株)、一般社団法人日本写真著作権協会。

(5) 創立65周年記念写真展「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」を開催した。写真は日本の海岸線を辿りながら、その風景と風土、人の暮らしを通して見る日本の国土と文化、社会を123人による197点の作品で展示構成。

開催名	会場	日時	参加数
◆東京展（共催・東京都写真美術館、後援・国土交通省、文化庁） 講演会 講師：椎名 誠（作家）	東京芸術劇場 5Fギャラリー1、2 5Fシソフォニースペース	3月1日（火）～ 13日（日） 3月5日（土）2時	4,252名 98名

また、同名の写真集を平凡社より2月に発行した。（B5変型、定価3,200円（モノクロ・カラー216頁）

その後2016年6月に関西展・京都市美術館本館、9月に国際交流基金共催で海外展・トンガ王国を予定。2017年4月に横浜展・日本新聞博物館も（予定）している。

特別協賛・富士フイルム(株)、キャノンマーケティングジャパン(株)、(株)ニコン、(株)ニコンイメージングジャパン。協賛・(株)タムロン、オリンパス(株)、(株)シグマ、(株)堀内カラー、(株)フレームマン、(有)東京カラー工芸社、(株)キタムラ、学研プラス「CAPA」編集部。（順不同）

公3事業、写真に関する著作権の普及、啓発に係わる事業

(1) 著作権に関する研究会、セミナーを開催した。

開催名	会場	日時	参加数
第1回「学ぼう！「動画」の著作権の正しい知識」 講師：安藤和宏（東洋大学法学部准教授、法学博士） 穂葉慶吾、(k's Lagoon LLC、(株)Della、音楽プロデューサー、映像作家)、天神木健一郎（JPS会員）	JCIIビル6階会議室	10月27日（火）	70名
第2回（関西）「学ぼう！「動画」の著作権の正しい知識」 講師：安藤和宏（東洋大学法学部准教授、法学博士）	大阪市立総合生涯学習センター第2研修室	平成28年2月18日（木）	44名

(2) Web上での写真著作権の問題点を研究した。

(3) 各種著作権契約に関する研究をした。

(4) 著作権の情報収集と公表を行った。研修会について、2月24日、JCIIビル会議室に於いて、「著作者の報酬請求権とは」について齊藤博（法学博士・弁護士）を講師に招いて研修会を行った。

(5) 著作権に関する「著作権よろず相談室」を毎月第3水曜日実施。相談数13件。

(6) 保護期間70年延長への継続運動の研究等をした。

(7) 保護期間の満了した写真著作権の現状調査継続と関係機関との話し合いに参加した。

(8) 「フォトコンテスト応募に関するガイドライン」の実施状況の調査研究を継続して行った。

(9) 2012年4月の初版に続き『写真著作権』第2版（A5判、184頁、2,400円）を1月27日発刊（太田出版）した。

(10) 一般社団法人日本写真著作権協会共催事業で『JPS会報著作権関連記事特集号』を発行し会員や関係者に贈呈した。（B5判、174頁）この冊子は、JPSが著作権の確立をめざして改正運動を展開した歴史が、判りやすく解説し、「著作権研究一覧」としてまとめ、著作権改正運動のみならず、写真界史としても貴重な資料。

(11) 2007年に発行し5刷りを重ねた『スナップ写真のルールとマナー』を新版として発行することになり、発行元の朝日新聞出版社と2016年7月に発行予定で編集作業を開始した。スマホ撮影、ドローン、自撮り棒などについての新たな内容を加筆する。

公4事業、写真に関する図書の編集発行、電子出版・情報に係わる事業

(1) 『日本写真家協会会報』を年3回（No.159～161）発行した。主な内容は159号・focus「報道写真の『加工』とやらせ」、160号・著作権研究「写真家のための『映画の著作権』の考察」、161号・座談会「写真学習プログラム10年の歩み」、「10年目を迎えた「日本写真保存センター」などを特集した。またエプソンとの共同企画による写真展「エプサイトプライベートラボでつくるインクジェットの主流～JPS会員によるプリント競演展～」を1月29日～2月18日までエプサイトで催した。JPS会員8名40点展示。入場者数3,102人。

(2) 電子出版、インターネット、ホームページを利用したサービス業務を行った。

公5事業、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰事業

(1) 写真文化への貢献に対する顕彰として1967年に創設した第41回「日本写真家協会賞」を、株式会社堀内カラーに贈り、贈呈式を、12月9日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。贈呈理由は、昭和34年創業のプロラボとして定評のある堀内カラーが導入した超大型のカラープリント技術は、写真表現の可能性と領域を大幅に拡大した。時代の先端をゆく技術開発として、写真家への貢献は計りしれなく、写真文化の発展に大きく寄与していることに対して。

(2) 新進写真家の発掘と育成を図るために、第11回「名取洋之助写真賞」の公募を行った。

①公募：35歳までの新進写真家を対象に、同一テーマの作品(プリント)30点を、公募期間は7月1日～8月20日まで提出。プロ写真家から大学在学中の学生まで、16名16作品。男性13人女性3人。カラー10作品、モノクロ3作品、カラー・モノクロ混在が3作品だった。

8月31日、JCII会議室にて、飯沢耕太郎(写真評論家)、広河隆一(フォトジャーナリスト)、田沼武能前会長の3氏により、厳正な審査が行われた。名取賞に鳥飼祥恵「amputee boy ーけんちゃんー」(カラー30枚)を、名取洋之助写真賞奨励賞に増田貴大「終わりの気配」(カラー30枚)を選び、授賞式を12月9日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。

②2015年第11回「名取洋之助写真賞受賞作品写真展」を催した。

会期	会場	入場数
平成28年1月29日(金)～2月4日(木)	東京・富士フィルムフォトサロン東京	9,651名
平成28年2月19日(金)～25日(木)	大阪・富士フィルムフォトサロン大阪	3,130名
平成28年3月2日(水)～6日(日)	福島・福島市民ギャラリー	90名

JPSが企画する『名取賞受賞作品写真集』を制作した。

(3) [第40回2015JPS展] 入賞・入選者280名を6月13日(土)、東京都美術館6階階堂で表彰した。

入賞・入選者総数：280名。一般部門：246名(文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞25名、入選208名)、18歳以下部門：34名(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選24名)

入賞者：文部科学大臣賞・大浦美保「時を経て」(3枚組カラー)

東京都知事賞・西川靖弘「駆ける少女」(単カラー)

金賞・菅原秀明「田舎にて」(3枚組カラー)

銀賞・杉本英夫「新たな門出」(3枚組カラー)、銀賞・大倉清司「地球を感じて」(単カラー)

銅賞・佐藤 豊「記憶の滲出」(3枚組カラー)、銅賞・浅野和夫「こらめっこ」(単カラー)

銅賞・上田智子「Smile」(単カラー)

18歳以下部門最優秀賞・金本凜太郎「humans and」(3枚組カラー)

日本写真家協会会長賞・九州産業大学芸術学部写真映像学科「風染みて」 幸喜ひかり、比嘉緩奈
ヤングアイ奨励賞・宝塚大学造形芸術学部制作力創造学科「刹那の向こうがわ」桑田紗季、松本真依

公6事業、写真に関する国際交流事業

(1) 国際交流セミナー、研究会を開催した。

開催名	場所	日時	参加数
第1回「タイ国撮影情報セミナー」講師：岡部哲雄(時事通信社社会部デスク)、セックソントリョーブ(写真家・タイ国政府観光庁東京事務所マーケティングオフィサー)、佐藤緑(タイ国政府観光庁東京事務所マーケティングオフィサー)	国際機関 日本アセアンセンター・アセンホール	4月17日(金)	40名
第2回「ドライ・ラマ法王取材記」 講師：野田雅也(写真家)	JCIIビル6階会議室	11月9日(月)	40名
第3回国際交流セミナー「巡礼の不思議『四国遍路』&『サンティアゴ・デ・コンポステーラ』」 講師：桃井和馬(写真家・JPS会員)	JCIIビル6階会議室	平成28年3月24日(木)	26名

(2) 来日する海外写真家との交流をした。

(3) 海外の写真情報の収集として

- ・スーダン在日本大使館よりスーダン写真家協会が主宰するフォトコンテスト「スーダンと日本の関係性」への協力依頼があり、賞品として写真集「日本の海岸線をゆく」とJPS展作品集を贈った。
- ・写真展「マグナムファースト『FACE OF TIME』」への企画協力を実施した。

(収益事業)

収 1 事業、書籍、物品の販売事業

- (1) 『2015JPS展作品集』を製作し、6月11日に発行した。
- (2) ネガカバー、ファイルなど写真整理用品や「JPS腕章」とPRESSステッカーの製作及び販売をした。
- (3) 海外プレスカードの発行をした。

(その他の事業 共益事業)

他 1 事業、ニュース、名簿の製作発行事業

- (1) 『JPSニュース』を年11回 (No. 529～539) 発行した。
- (2) 『会員名簿2016～2017』を平成28年1月に発行した。

他 2 事業、祝賀会の事業

- (1) 会員相互祝賀会を12月9日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。参加者322名。

他 3 事業、保険の事業

- (1) 「2015年 J P S 団体所得補償保険」に団体加入した。

事業報告書の付属明細書について

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成いたしません。